

進捗報告書（資金分配団体）

事業名:	ウイズコロナ地域活動再生計画
資金分配団体:	特定非営利活動法人ACOPA
実行団体数:	5団体
実施時期:	2020年3月～2021年2月
事業対象地域:	千葉県
事業対象者:	600人

Version 1.0

日付：2021年9月15日

I. 事業概要

事業概要
コロナ禍で、大人は雇用の不安を抱え、高齢者は精神的、身体的に引きこもらざるを得ず、子どもは学業や放課後活動の制約の中で多くの不安を持っている。一方、地域の課題に取り組むNPO等は活動が制限され、事業の縮小により、経営的に困難な状態にある。当法人は、コロナ禍で職場を失った人材を活用し、子ども達の学習支援・食事のサービスを通じた居場所作りやオンライン学習の整備などを行い学習機会の充実に取り組む。本事業を通じて、コロナ禍で仕事を失った人の新たな職場ができ、NPOは新規事業の計画・推進ができれば、地域の活性化に繋がる。中間支援団体として、当法人は1年間の伴走支援を通じて事業推進を支援する。

II. 進捗報告の概要

総括
本事業の推進にあたり①実行団体の募集にあたり、公開募集とは別に事前に有力な団体候補をリストアップし、直接訪問したことである。結果8団体が応募、優良な5団体を選定することが出来た。②伴走支援はPO任せにせず、そのサポート役として2名の推進員を確保する仕組みを導入、選定された実行団体への事業開始前のサポート、毎月の支援に係わった。実行団体のアウトプットは中間時点で、目標以上の成果を挙げつつある。

III. 活動実績

資金支援

アウトプット（今回の事業実施で達成される状態）	進捗状況
①資金分配団体として、選定された実行団体の事業推進が計画通りに進行する状態 ②実行団体のアウトプットが目標通りに進行し、アウトカムを生むことが出来る状態とする。	①実行団体の選定にあたり、選定委員会から7団体の候補を選出、その後、ACOPA理事会で選定を行い団体を選定した。結果、前期の終わる団体では、優良な団体が選定されたと理解している。 ②実行団体のアウトプットにおいては、前期を終え、順調に推移しているとみている。但し1団体がコロナ禍により影響でリアルな実習セミナーが不可となり、リモートセミナーに切り替え、進める計画で、多少の誤差はあるものの、計画通り遂行出来ることと考えている。詳細は下記の通り。

実行団体名	進捗状況	概要
キャリアデザイン研究所	ほぼ計画通り	全体として、新型コロナウイルスの拡大、緊急事態宣言の発動により、集客のためのセミナー中止、利用者来所の制限、企業訪問・体験の延期等により、活動が停滞している部分もあるが、計画している活動を順次進めている。目標達成のためには、事業対象者へのリーチ、事業対象者が応募できる企業発掘、そして応募面接などの機会回復が重要であるため、オンラインアプローチも含め、変化に対応できる事業計画の見直しを確認しながら進めていく。
新閃力	ほぼ計画通り	月4回の取り組みと月1回のイベントを実施し、子どもたちが「受動的に参加する側」から「能動的に企画する側」に変更しつつある。文科省も不登校対策のゴールを「学校に戻る」ことだけでなく、「社会的自立」と発信しました。ICT教育推進顧問として流山市の教育研究企画室とは打ち合わせを進めて、オフィスでの子ども達の様子をフィードバックしつつ、フリースクールに通っている子どもたちへの授業実施、さらにバーチャルフリースクールの公教育での活用も提案している。
スマイルクラブ	ほぼ計画通り	全体的には、ほぼ予定通り進捗をしている。各項目別には、 1) 動画作成については、順調であるが、視聴回数に課題があり、それを今後解決していく。2) 中学校部活動支援については、学校側にも理解いただき、順調に進捗中。ただしPC関連スキル向上が課題。3) コロナ感染予防のためのチラシとマニュアルについては作成済

手賀沼まんだら	ほぼ計画通り	荒廃したビニールハウス、長年放置された竹林を背負い、耕作を放棄された農地を子ども達や「ごちゃにわ」の活動に関心を持った大人、学生が集まり、力を合わせて開墾し、草を刈り、ビニールハウス内を片付け、屋根を張り替えて、気持ちよく過ごすことができるようなコミュニティスペースを整備した。公教育の地域を学ぶ場として「ごちゃにわ」が活用されるケースは想定していなかったが、6月に1校が体験活動を実施、後半もまた別の学校にて体験活動が予定されている。「ごちゃにわ」での体験や、「ごちゃにわ」で実施したプロジェクトをブラッシュアップしていき、「ごちゃにわ」が様々な活用がされることで、多くの人に認知され、コミュニティプレイスを必要としている人に届くようにと試行錯誤している。
ゆこびと	遅延あり	事業の進捗としては、最初の「こども食堂フォーラム」の開催は会場、リモートを合わせると80名の参加があり、順調に進んだように見える。しかし、新型コロナの感染拡大により、鎌ヶ谷市内の感染者が一日30名を超えるという事態になったことから、9月4日開催の「こども食堂立ち上げ実践講座」を一週間ずらし18日から開始することを余儀なくされた。今後の感染状況によっては、最終目標としての「こども食堂の開催」は難しいため、フードパントリー実施による支援活動のスタートをきることになる事を想定しつつ、取組んでいく。

非資金的支援（資金分配団体の伴走支援活動）

活動	進捗状況	概要
キャリアデザイン研究所	計画通り	VR等の新機材の紹介やそれを活用して、新しいプログラムを開発、運営している企業の紹介やマッチングを行っている。
新閃力	計画通り	事業に関連する先進団体の情報を提供したり、関係者を紹介するなどを行っている。
手賀沼まんだら	計画通り	地区自治体をつうじて、団体への見学や研修に参加を希望する小学校や中学校を紹介し、相互のマッチングや先進的な取組みを紹介する。
ゆこびと	遅延あり	団体メンバーに関し、地域活動や事業の進め方に関する研修を実施した。

IV. 事業実施後（1年以降）に目標とする状態への所感（中間時点）

自由記述
<p>・資金分配団体であるACOBの所感</p> <p>①資金分配団体としての本事業の遂行においては、前期を終えて、優良なる団体が選定できていること、半期の伴走支援を通じて、既に相当な成果を生みつつあることから、年度末における事業アウトプットを達成出来る見通しが出来つつある。②千葉県地域において休眠預金事業の成果を広め、より多くの自治体や地域活動団体への周知をはかり、地域課題の解決に役立つための一役を担いたいと思慮する。</p> <p>・実行団体である5つの団体についての所感</p> <p>実行団体は、①コロナ時における子どもの教育福祉支援事業 ②新型コロナウイルス対応障害者福祉支援事業 ③生活困窮者支援のための市内資源拡充事業 ④孤立解消のためのコミュニティプレイスの運営 ⑤子ども・若者オフィスの開設 とそれぞれの活動テーマを掲げ、事業を推進している。既に相当なアウトプットを確立しつつ有り、利用者は勿論、地域の行政機関、関係部署や地域団体への大きな反響を及ぼしつつある。1年後の事業継続について、事業の再構築や資金確保など、どのような支援ができるか考慮しつつ後期の伴走支援を行っていく。</p>

V. インプット

		2020年度	2021年度	合計	執行金額	執行率
事業費	実行団体への助成に充当される費用	¥13,187,500	¥13,187,500	¥26,375,000	¥11,937,678	45%
	管理的経費	¥1,557,852	¥2,063,560	¥3,621,412	¥2,362,239	65%
プログラム・オフィサー関連経費		¥142,680	¥239,000	¥381,680	¥264,032	69%
合計		¥14,888,032	¥15,490,060	¥30,378,092	¥14,563,949	48%
補足説明		なし				

VI. 事業上の課題

事業実施上顕在化したリスク/阻害要因とその対応

コロナウィルスの関係で第5回緊急事態宣言が延期となり、「生活困窮者支援のための市内資源拡充事業」を実施している団体の「子ども食堂立ち上げ実習セミナー」が一部リモートへの変更を余儀なくされ、中身の厚い研修に影響が出来ることが不安視されている。感染状況によっては、最終目標としての「こども食堂の開催」は難しいため、フードパントリー実施による支援活動のスタートをきることになる事を想定しつつ、取組んでいく。他団体への影響はあまりないが、冬季節が長い間を締める後期において、さらなるコロナウィルスの社会・経済活動における悪影響を心配している。臨機応変に対応を考えて、目標の達成に臨んでいきたい。

VII. その他

自由記述

当ACOBAは資金分配団体としては新参であり、事業自体も3000万円実行5団体という小さな事業であり、前期を終えたばかりであるが5団体においては当初の想像を超えた成果をあげつつある。活動テーマは、①コロナ時における子どもの教育福祉支援事業 ②新型コロナウイルス対応障害者福祉支援事業 ③生活困窮者支援のための市内資源拡充事業 ④孤立解消のためのコミュニティプレイスの運営 ⑤子ども・若者オフィスの開設 もしこのときにこの様な制度と仕組みがなければ、事業計画も実施もいづれもなしえないことである。

地元の社会活動における影響は大きく、それだけでも休眠預金事業の果たす役割は大きい。休眠預金事業は2019年度に始まったばかりで、未だ未だ知名度が低い。更に様々な団体が取組み、広い社会活動のインパクトにつなげたいものである。Janpiaが掲げる7つの活動テーマはどれも現在の我が国で抱える大きな課題である。通常型事業、コロナウィルス対応型支援事業を含め、当法人としても積極的に取組み、地域の役に立ちたいと思慮する。

VIII. 広報実績

広報内容	有無	内容
メディア掲載（TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等）	有	①千葉県生活・文化県民活動推進班に依頼し、県のNPO（約5000）団体へのメルマガを通じて公募要領及び説明会案内情報を公開してもらった。 ②当法人ホームページにて公募募集、説明会の案内を情報公開した。
広報制作物等	有	①本事業の案内パンフレットを作成、県北西部の主なNPO団体に郵送 ②事前訪問時に案内パンフレットを持参、活用した
報告書等	有	・我孫子市市民活動ネットワークへ事業レポート（事業活動情報提供） ・ACOBA理事会への事業活動報告（2020年度事業報告）

IX. ガバナンス・コンプライアンス実績

ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1. 社員総会、理事会、評議会は定款の定める通りに開催されていますか。	はい	
2. 内部通報制度は整備されていますか。	はい	
3. 利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	いいえ	ガバナンス委員会は理事会でガバナンスに関する状況確認を行っている。
4. 関連する規程の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
5. コンプライアンス委員会は定期的に行われていますか。	いいえ	コンプライアンス委員会は理事会でコンプライアンスに関する状況確認を行っている。